様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１１４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2018
課題番号：２５３７００４１

研究課題名（和文）原左氏伝の翌年称元法から春秋左氏経の翌年称元・正月即位法への展開と春秋学派の研究

研究課題名（英文）A study on the development from the rule of Yokunen Shougen in the original text of Zuo shi Zhuan to the rule of enthronement in January of the New Year in Chun qiu Jing and on the school of Chun qiu.

研究代表者
吉永　慎二郎（YOSHINAGA, Shinjirou）

秋田大学・名誉教授・名誉教授

研究者番号：７０２４０３３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：　左氏伝は通説的には春秋左氏経の注釈書とみなされているがその経に対する解経文と若干の付加伝文を除いた大部分の史伝文は原左氏伝と見なし得る。
　本研究はこの原左氏伝から抽出と編作の手法により左氏経が制作されたことを論証し、春秋テキストが前4世紀前半から漢初にかけて、諸侯の策（列国史）→原左氏伝→左氏経・左氏伝→春秋経（穀梁・公羊型）→原穀梁伝・公羊伝→公羊伝・穀梁伝、という六段階の展開を為したことを明らかにしている。
　更に原左氏伝の著作意図、原左氏伝からの左氏経・左氏伝の著作意図を解明し、これらテキストを為した春秋学派と列国執政との関係を解明している。その成果は『「春秋」新研究』として公刊された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、従来の春秋経からの注釈としての左伝の成立という経学的通説の視点をコペルニクス的に転換し、原左氏伝→春秋経・左氏伝→春秋経(穀・公型)との斬新な仮説を論証し、その形成過程において中国文明の経学史観と称すべき歴史観が成立したことを明らかにする。
　その経学史観は、本研究の考察の示すように、中国が夷狄を支配するという華夷史観、王朝交代は天の暦数の循環のように循環的に為されるという循環史観、名を立て、その名によりて裁き、その名が実を生ずという名の論理による名教史観、という三つの下位史観から構成されている。
　この経学史観が現代中国に至るまでの中国文明の歴史観の淵源であることを明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：Zuo shi Zhuan is generally regarded as the text of explication for Chun qiu Zuo shi Jing. But,if we could exclude the sentennces of note on Chun qiu Zuo shi Jing and added Zhuan from the text of Zuo shi Zhuan,the rest of the text can be regarded as the original text of Zuo shi Zhuan. Therefore,I have presented a hypothesis that Chun qiu Zuo shi Jing was edited from the original text of Zuo shi Zhuan by the method of extraction and production,at the same time the editor put the sentences of note on Chun qiu Zuo shi Jing and added Zhuan in The original text of Zuo shi Zhuan,here had become the text of Zuo shi Zhuan that can be regarded as an original form of the present text of Zuo Zhuan.This point of view stands on the standpoint where is an about turn like as Copernics from that of common view. This study has systematically provided the theory and view that the school of Chunqiu according to the historybooks of the nations had composed those three Chunqiu texts in the 4th century BC.

研究分野：中国哲学

キーワード：原左氏伝からの春秋左氏経・左氏伝の成立　左氏伝：Zhuo shi Zhuan　春秋経：Chun qiu Jing　経学的視点のコペルニクス的転換　全春秋経文の四種類型文への分類　全左伝文の列国史・評言・凡例・解経文への分類　踰年称元・正月即位という「名」　華夷史観・循環史観・名教史観からなる経学史観

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の着想の出発点は、拙著『戰國思想史研究―儒家と墨家の思想史的交渉―』（平成16年(2004)、朋友書店）において提起した『原左氏伝』からの『春秋左氏経』の制作というテーマである。このテーマを平成22～24年度の科研費研究「春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究」において具体的に考察を進め、その成果を『春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究―春秋二百四十四年全左氏経文の抽出・編作挙例と左伝文（上）―』（平成25年(2013)、秋田活版印刷(株)印行、全124頁、私家版）として刊行した。この成果を踏まえて平成25～30年度に渡る科研費の交付を得て本研究を開始することとなった。

２．研究の目的

今本左伝では魯の十二公は定公を除けば前君主の薨去の直後に即位し翌年に元年を称するという形式で年代記が配列される「当年即位・翌年（踰年）称元法」である。これに対して春秋経（左氏経）では「翌年称元法」の原則に加え、桓・文・宣・成・襄・昭・哀の七公の「正月即位」を記し、左伝には無い「正月即位法」という新たな原則を確立している。左伝は春秋左氏経の注釈の体裁を採るための解経文と若干の付加伝文を除くと本体は史伝文に他ならず、そこに『原左氏伝』と目されるテキストが浮かび上がる。「当年即位・翌年称元法」はこの『原左氏伝』に由来するものと見られ、『原左氏伝』に記される諸侯の即位では「正月即位法」は確認されない。したがって、「当年即位・翌年称元法」から「翌年称元・正月即位法」への展開が実証的に論証されるとすれば、それは『原左氏伝』から『春秋左氏経』が成立したことを雄弁に物語ることになる。本研究は、この問題を含めて『原左氏伝』から『春秋左氏経』『左氏伝』の成立という仮説を出土資料を含む資料批判・文献批判及び暦法研究等を踏まえて実証的に検証し、その上で原左氏伝からの春秋経（左氏経）・左氏伝の成立メカニズムと春秋学派の歴史的実態を解明せんとするものである。

３．研究の方法

(1)　まず、上記の『春秋左氏經文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究―春秋二百四十四年全左氏經文の抽出・編作挙例と左伝文（上）―』において隱・桓・荘・閔・僖・文公期の全経文において遂行した考察を残り六公について同様に遂行した。即ち宣・成・襄公期及び昭・定・哀公期の分析・考察については、下記の同（中）、同（下）においてそれぞれその成果をまとめている。これらの分析・考察の基軸は春秋左氏経の全経文を四種類型文（①原左氏伝からの抽出文、②原左氏伝からの抽出的編作文、③編作文、④無伝の経文）に分類するという方法である。

(2)　また、今本左伝の全伝文について、原左氏伝に相当する史伝文はその由来する列国史の国名を推定して記し、残りの伝文は評言・凡例・解経文・付加伝文等に分類しこれを分節して記すという方法を基軸にしてその分析と考察を進めている。

(3)　これらの作業を踏まえて、『原左氏伝』所載魯史、同晋史、同楚史、同斉史の著作意図を考察した上で『原左氏伝』の著作意図を明らかにし、さらに『原左氏伝』からの『春秋左氏経』『左氏伝』の著作意図を明らかにし、そしてそれらを担った春秋学派と列国執政との関係等について考察を進めている。

(4)　上記の考察に当たっては清華簡『繫年』を始めとする近年の出土資料研究の最新の成果を踏まえかつ当該資料の独自の吟味を踏まえた上でこれらを積極的に活用している。また、天文・暦法の知見についても従来の学説の慎重な検討の上に、新たな実証的見解も提示してこれを活用している。

４．研究成果

(1)　上記の方法により宣・成・襄公期の全経文と全左伝文について分析・考察を進め、その成果を『春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究―春秋二百四十四年全左氏経文の抽出・編作挙例と全左伝文（中）―』（平成26年(2014)、秋田活版印刷(株)印行、全130頁、私家版）として刊行した。

(2)　上記の方法により昭・定・哀公期の全経文と全左伝文について分析・考察を進め、その成果を『春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究―春秋二百四十四年全左氏経文の抽出・編作挙例と全左伝文（下）―』（平成27年(2015)、秋田活版印刷(株)印行、全192頁、私家版）として刊行した。

(3)　上来の一連の成果を綜合し体系化した成果として『「春秋」新研究―「原左氏傳」からの「春秋經」「左氏傳」の成立と全左氏經・傳文の分析―』（令和元年(2019)、汲古書院、全668頁、ISBN978-4-7629-6625-5 C3010）を公刊した。ここでは、春秋十二公二百四十四年の全左氏経文の四種類型文の分布状況は、①原左氏伝からの抽出文が22%、②原左氏伝からの抽出的編作文が29,7%、③編作文が18,4%、④無伝の経文が29,9%となり、原左氏伝からの抽出系の経文が51,7%（①＋②）、編作系が48,3%（③＋④）となり、抽出系の経文が全体の半数をやや超えることは意図的にこのような手法が用いられたと推定される有意な結果であると判断されることを明らかにしている。これと対応して、「春秋」テキストの展開が、1.諸侯の策（列国の史記：晋の乗・楚の

檮杌・魯の春秋等）→2.原左氏伝（天下の春秋）→3.春秋左氏経・左氏伝→4.春秋経（穀梁・公羊伝型）→5.原穀梁伝・原公羊伝→6.公羊伝・穀梁伝、という六段階において把握されるとの理解を実証的に提示する。また、原左氏伝所載魯史・同晋史・同楚史・同斉史の考察を通して『原左氏伝』の著作意図を明らかにし、左伝の各種の評言・凡例・解経文・付加伝文の考察を通して『春秋左氏経』『左氏伝』の著作意図を明らかにしている。そしてこれらのテキストが成立した時代背景には、東周における覇者の時代（諸侯の時代）→列国執政の時代（「民の主」の時代）→三晋（趙・韓・魏氏）や田斉（陳氏）が諸侯となりやがて諸侯が称王する戦国の時代、という歴史の進展が在り、『原左氏伝』は晋の趙氏・韓氏や斉の陳氏や魯の季氏と連携した春秋学派、『春秋左氏経』『左氏伝』は主として魏氏と連携した春秋学派の手にそれぞれなるものとの理解を提示している。とりわけ『春秋左氏経』『左氏伝』の著作は三正論とその三正循環による夏→殷→周→夏という形での王権交代論を提示し、戦国初期の魏の称夏王(夏王を称す)に正統性を与えるものとして構想されたことを明らかにしている。

(4) 本研究は、『原左氏伝』から『春秋左氏経』『左氏伝』がほぼ同時に成立したことを明らかにする。即ち『原左氏伝』から抽出・編作により『春秋左氏経』が制作され、同時にその解経文と新たな伝文が『原左氏伝』に付加されたことにより『左氏伝』（今本左伝の祖型テキスト）が成立する。この三つのテキストについて、次のような関係を明らかにしている。

即位・称元については、次の関係を明らかにし、「正月即位法」は春秋期の実態ではなく「名」として立てられたものであることを明らかにする。

『原左氏伝』：当年即位・当年称元法もしくは当年即位・踰年（翌年）称元法

『左氏伝』：当年即位・踰年（翌年）称元法

『春秋左氏経』：踰年（翌年）称元・正月即位法

三正論については、次の関係を明らかにし、原伝からの経・伝の成立は三正循環による王権交代を説く意図によることを明らかにする

『原左氏伝』の暦法：冬至正月型―季冬正月暦―殷正

『春秋左氏経』の暦法：冬至前月正月型―仲冬正月暦―周正

『左氏伝』の暦法：冬至後月正月型―孟春正月暦―夏正

(5) 本研究は、『春秋左氏経』の日食記事について、テオドール・オッポルツェルの『食法典』を踏まえて先行研究を検討し、経の日食記事は地球上には起こらないはずの非食の記事が三例あり、曲阜では見えない不食の記事が一例あり、実録そのままであるとは見なし得ない。また食のユリウス通日からの関係を明らかにし、数理的に導かれる干支についても経の記事と異なるものが五例ある。したがって、経の日食記事は先行する実録に二次的もしくは三次的な手の加えられていることが想定され、日食記事を以て春秋経を「真」であるとする議論は成り立たないことを明らかにする。

(6) 本研究は、『原左氏伝』が晋の乗・楚の檮杌・魯の春秋等の列国史記から「天下の春秋」として著作された意図の中心にあるのは、中国の諸侯を代表する斉の桓公・晋の文公の時代から夷狄の楚の荘王が覇者として登場する時代へと移行することに象徴されるように中国から夷狄に覇権が現実に移行する時代において、「文」において「中国が夷狄を兼ねて天下を治める」という礼の秩序を明らかにして中国の覇権の失地回復をはかることであったことを明らかにする。

(7) 本研究は、『原左氏伝』から『春秋左氏経』『左氏伝』が著作されたその意図の中心にあるのは、上記の『原左氏伝』の著作意図を更に発展させて、従来は夷狄の呉・越の用いた「天王」の語を正式に「中国の天子」を称する用語として用い、この「天王」の下の天下の「名」の秩序の下に、毀誉褒貶の筆法を確立し、その上で三正循環により周王に代わる新たな「天王」として夏王が登場することを理論的に用意するものとして両テキストを著作することであったことを明らかにする。

(8) 上記の諸点を含む本研究の成果は、拙著『「春秋」新研究―「原左氏傳」からの「春秋經」「左氏傳」の成立と全左氏經・傳文の分析―』に体系的に記述されている。その内容は次の通りである（用字は基本的に同書の表記による）。

第一部　『原左氏傳』からの『春秋左氏經（春秋經）』『左氏傳』の成立メカニズム

第一章

㈠　先秦の「春秋」テキストと「春秋」學―春秋テキストの六段階―

㈡　『春秋左氏經』文の〈四種類型文〉と分析結果―『原左氏傳』からの抽出・編作による『經』の成立―

㈢　〈無傳の經文〉の制作の意味―歴史記事の消去と作爲―

㈣　『左傳』文の〈四類型〉と〈無經の傳文〉の意味―文公期傳文の分析例より―

【参考】上記以外の主な文獻(先秦より漢代に至る)の「春秋」の言及と春秋(左氏)經の日食記事について

第二章

㈠　『原左氏傳』から『春秋經』の成立に至る三段階とその年代比定

㈡　『原左氏傳』と『春秋左氏經(春秋經)』『左氏傳』の「暦法」並びに三正論について

㈢　『原左氏傳』の當年卽位・踰年稱元法から『春秋左氏經』の踰年稱元・正月卽位法へ
㈣　『原左氏傳』と清華簡『繫年』における卽世と卽位―『春秋經』の正月卽位法の再檢討―
第三章
㈠　『原左氏傳』所載魯史から見たその著作意圖―「嫡庶の論」と季氏の專權―
㈡　『原左氏傳』所載晉史から見たその著作意圖―曲沃の晉侯から三晉へ―
㈢　『原左氏傳』所載楚史から見たその著作意圖―「楚子」と「天王」と「天下の春秋」―
㈣　『原左氏傳』所載齊史から見たその著作意圖―姜齊と陳氏(田齊)―
㈤　『原左氏傳』の著作意圖について
第四章
㈠　『原左氏傳』及び『左傳』の評言の再檢討と春秋テキストの重層性①―「孔子曰」「仲尼曰」について―
㈡　『原左氏傳』及び『左傳』の評言の再檢討と春秋テキストの重層性②―「君子以爲」「君子是以知」「君子謂」について―
㈢　『原左氏傳』及び『左傳』の評言の再檢討と春秋テキストの重層性③―「君子曰」について―
第五章
㈠　『春秋左氏經』の作經原則としての〈凡例〉について
㈡　『春秋左氏經』の〈解經文〉について
㈢　『原左氏傳』の「禮」の思想から『春秋左氏經（春秋經)』の「名」の思想へ
㈣　『春秋左氏經（春秋經)』の著作意圖について
第二部　春秋二百四十四年全左氏經文の抽出・編作擧例と全左傳文の分析
第一章
㈠　隱公期全左氏經文の抽出・編作擧例と隱公期全左傳文の分析
㈡　隱公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第二章
㈠　桓公期全左氏經文の抽出・編作擧例と桓公期全左傳文の分析
㈡　桓公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第三章
㈠　莊公期全左氏經文の抽出・編作擧例と莊公期全左傳文の分析
㈡　莊公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第四章
㈠　閔公期全左氏經文の抽出・編作擧例と閔公期全左傳文の分析
㈡　閔公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第五章
㈠　僖公期全左氏經文の抽出・編作擧例と僖公期全左傳文の分析
㈡　僖公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第六章
㈠　文公期全左氏經文の抽出・編作擧例と文公期全左傳文の分析
㈡　文公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第七章
㈠　宣公期全左氏經文の抽出・編作擧例と宣公期全左傳文の分析
㈡　宣公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第八章
㈠　成公期全左氏經文の抽出・編作擧例と成公期全左傳文の分析
㈡　成公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第九章
㈠　襄公期全左氏經文の抽出・編作擧例と襄公期全左傳文の分析
㈡　襄公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第十章
㈠　昭公期全左氏經文の抽出・編作擧例と昭公期全左傳文の分析
㈡　昭公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第十一章
㈠　定公期全左氏經文の抽出・編作擧例と定公期全左傳文の分析
㈡　定公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第十二章
㈠　哀公期全左氏經文の抽出・編作擧例と哀公期全左傳文の分析
㈡　哀公期全左氏經文の四種類型文の分布狀況
第十三章
春秋二百四十四年全左氏經文における四種類型文の分布狀況

以上

(9)　本研究の意義と位置づけ：中国哲学・哲学史研究・思想史研究及び歴史研究において、春秋経テキストの成書問題は千古の難問である。孔子制作説などの経学的通説はさすがに相対化されているが、春秋経は客観的な春秋時代の魯国の歴史記述であるとしてその基軸の上に構築される理論や学説は後を絶たない。それは従来の春秋及び左伝研究では春秋経テキストそのものを相対化する視点が生まれてこなかったからである。本研究の『原左氏伝』からの『春秋左氏経』と『左氏伝』の成立、さらに『春秋左氏経』からの『春秋経』の成立という、従来の視点のコペルニクス的転換による見地と論理が初めて春秋経テキストの相対化、即ち歴史実証的な位置づけ、の橋頭堡を提起したことになる。ここに本研究の独創性と画期的な意義があると言えよう。

(10)　今後の展望：本研究によって切り開かれる新たな展望は多方面にわたるが、今その主なものを列挙すると次のようになる。

一つには、従来の東周二区分論（春秋と戦国）に対して、東周三区分論という展望である。『原左氏伝』の考察に見られるように、晋では「民の主」とされた趙盾の専権は幼君霊公の擁立（前 620 年）に始まり、その後は九卿の執政期を経て三晋が台頭し、遂に晋は滅びる（前 376 年）。この間の 245 年間の実権は「民の主」と称される列国執政の手に握られており、この時代を列国執政時代（「民の主」の時代）と称し得る。するとその前段階の前 770 年～前 621 年の 150 年間は諸侯の時代（覇者の時代）、その後段の前 375 年～前 221 年の 155 年間が戦国時代となる。あるいは戦国の始まりを三晋の列諸侯（前 403 年）にすることも考えられるが、いずれにせよ当該時期のアクチュアルな把握には東周三区分論は必至となる。

二つには時令説の淵源がこの『原左氏伝』から『春秋左氏経』『左氏伝』というテキストの展開過程に見いだされることが明らかにされたことにより、『管子』や『礼記』、さらに『呂氏春秋』や『淮南子』に見られる時令思想や統治論がこれら春秋テキストの系譜において再検討される展望が開けてきた。

三つには原伝から経・伝に至る「礼」から「名」への思想の展開は名教の淵源を為すもので、「名」を褒貶の鍵とし、ひいては救済の原理とするもので、『孝経』や『呂氏春秋』にはこのような思想の展開もしくは影響を看取し得る。これらテキストの系譜的見直しは必至となろう。先の時令思想にこの「礼」と「名」の観点を加えれば、『論語』『周礼』を含む広汎な古文系テキストの系譜的見直しと再検討は必至となる。

四つには、この名教論や華夷の弁別、循環的王権交代という視点から構成される歴史の総観照は『原左氏伝』からの『春秋左氏経』『左氏伝』の成立過程において一つの結実を見ており、それは〈経学史観〉と称し得る。本研究が指摘するようにこれは朱子学の大義名分論の淵源を為している。したがって、中国文明の歴史観の基軸を為すのがこの経学史観にほかならないこととなるのであるから、本研究は中国文明の歴史観の淵源の解明に新たな展望をもたらすものとなる。

五つには、経学史観は、このように華夷史観・循環史観・名教史観という三つの下位史観から構成されるが、とりわけ名教史観は中国文明の思考法の特徴である「名」の論理をよく体現している。本研究はこれを、①名を立つ、②名によりて裁く、③名が実を生ず、という三原則として機能するものとの理解を提示している。経において「名」として立てられたものが、これにより毀誉褒貶の裁きがなされ、やがてそれが「実」となるという思考法である（例えば、孟子の「乱臣賊子、懼る」はこの「名」の裁きの故であり、明の朱元璋が正月即位によって皇帝となっているのは経の「正月即位」の「名」が「実」となった事例である）。これは今日の中華人民共和国の歴史観や法思想をも支配する思考法として大きな力を有している。本研究は「名」の論理から中国文明の思考法を検討・考察する橋頭堡を提示するものとなっているのである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 2 件）

1　吉永慎二郎「先秦の「春秋」テキストと「春秋」学」　『新しい漢字漢文教育』査読あり、第 66 号、21～32 頁、平成 30 年（2018）6 月

2　吉永慎二郎「「原左氏傳」と清華簡「繫年」における卽世と卽位―「春秋經」の正月卽位法の再検討に及ぶ―」『集刊東洋学』査読あり、第 117 号、1～23 頁、平成 29 年（2017）6 月

〔学会発表〕（計 8 件）

1　吉永慎二郎「原左氏伝からの春秋経・左氏伝の成立―中国文明の歴史観」　東北中国学会第 68 回大会公開講演（招待講演）、令和元年（2019）5 月 24 日、於秋田大学 60 周年記念ホール

2　吉永慎二郎「『原左氏伝』の著作意図と「民之主」の時代」　秋田中国学会平成 29 年度秋季第 165 回例会、2017 年 11 月 25 日、於秋田大学総合研究棟 1 階多目的共用講義室

3　吉永慎二郎「先秦の「春秋」テキストと「春秋」学」　全国漢文教育学会第 33 回（通算 63 回）大会、平成 29 年（2017）6 月 11 日、於東北大学中講義棟教室

4　吉永慎二郎「「原左氏伝」と清華大学蔵戦国竹簡(貳)「繫年」における即世と即位」　東北中国学会第 65 回大会、平成 28 年（2016）5 月 28 日、於山形大学人文学部 301 教室

5　吉永慎二郎「「原左氏伝」及び「春秋左氏経」の暦法と三正論」　秋田中国学会平成 27 年度秋季第 161 回例会、2015 年 11 月 28 日、於秋田大学教育文化学部 3－344 教室
6　吉永慎二郎「春秋經成立的機構與原春秋左氏傳的關係」　台湾國立高雄師範大學經學研究所専題講演（招待講演）、2014 年 10 月 20 日、於國立高雄師範大學經學研究所
7　吉永慎二郎「左伝所載魯史の編作意図」　秋田中国学会平成 26 年度春季第 158 回例会、2014 年 5 月 17 日、秋田大学教育文化学部 3－255 教室
8　吉永慎二郎「春秋の筆法と中国文明の思考法―春秋経の作経メカニズムの解明を通して―」秋田中国学会平成 25 年度春季第 156 回例会、2013 年 5 月 18 日、於秋田大学総合研究棟

〔図書〕（計 3 件）
1　吉永慎二郎『「春秋」新研究―「原左氏傳」からの「春秋經」「左氏傳」の成立と全左氏經・傳文の分析―』　令和元年（2019）5 月 24 日、汲古書院、全 668 頁、ISBN978-4-7629-6625-5 C3010
2　吉永慎二郎『春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究―春秋二百四十四年全左氏経文の抽出・編作挙例と全左伝文（下）―』　平成 27 年（2015）10 月 15 日、秋田活版印刷(株)印行、全 192 頁、私家版
3　吉永慎二郎『春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究―春秋二百四十四年全左氏経文の抽出・編作挙例と全左伝文（中）―』　平成 26 年（2014）9 月 7 日、秋田活版印刷(株)印行、全 130 頁、私家版

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。